

広報よもぎた

内容

- 82年の展望……………2
- 行政懇談会・村の発展は住民との対話から……………3～5
- 郷土の歴史・村内石碑めぐり……………6～7
- 話題の広場・農村文化を掘り起こせ……………8～9
- 特集・青少年の主張・高校生の遊び
僕の早朝マラソン・婦人の立場から……………10～12
- くらしのコーナー・保健婦さんの相談室……………13
- 談話室・ヤングメッセージ・母親クラブ通信
とっちゃん元気ですか・戸籍の窓口……………14～16

No. 142



新しい村営住宅完成

人口対策に一役

九月から、蓬田宮本（総合グラウンド向い）に建設を進めていた村営住宅が完成しました。この地区は、学校や駅、病院にも近く、住宅地の環境には最適です。

村民の中には、蓬田に住みたくても住宅不足が原因で、近隣の青森市や蟹田町に住まいを求めめる人がかなりいます。村の人口が年々減少傾向でもあり、人口対策の一つとして効果が期待できます。

今回建設した十戸の住宅には、郵政省で扱っている簡易保険積立金が役立っています。これはみなさんが納めた保険料を、簡保資金として市町村に融資し、学校・住宅・道路など公共施設の充実に利用する制度です。

わが村ではこれまで、中沢長科裏通り線の改良、長科川災害復旧工事、蓬田小学校や蓬田中学校の新築、役場庁舎、肉用牛モデル畜舎の建設財源として活用されています。

1月

昭和57年

新しい農村づくり構想に着手

親愛なる村民のみなさま、新年おめでとございます。決意も新たに、老いも若きも総力を結集し、伝統あるふるさとの発展に努めたいと存じます
一昨年に続き、昨年も凶作に



蓬田村長 森 初男

みまわれた農家のみなさまには、心からお見舞い申し上げます。我が村は米作中心であるため、その被害も惨たんたる状況であり、農家の心境も察するに余りあります。行政上の面からは、緊急に対応すべき点は精いっぱい進めてきました。できる限りの援助として、凶作対策補助金も補助正予算に計上しています。

この苦い経験を活かして、これからは冷害に耐えることができる農業を目指します。そのために、新農業構造改善事業という制度を取り入れました。主な内容は、上位等級米確保のキャントリーエレベーター、地力増進を目指すたい肥センター、農村情報連絡施設、地域環境整備、農業者トレーニングセンター、農業基盤整備機械などが含まれています。これらの事業を活用し、豊かな村づくりを進めたいと思います。

事、モデル事業、畜産振興事業があり、順調に進んでいます。漁港事業は、政府予算が横バイ状態で、第七次計画に組み込まれます。早期完成を目標に、一層努力します。

村政は村民一人一人の幸せを守るが原則ですが、ときには、みなさんの要望に満足のいく措置をとれない場合もあります。それが町村長の限られた権限、財政などにあることは、理解いただけたと思います。

最近政府では行革、行革と非常に厳しい財政事情です。そのしわ寄せが町村にすることは必ずです。この中で村民の幸せを

最大限に願った行政を執行しようとするならば、合理的な計画に基づいた村政運営が必要だと考えます。

我が村の所得政策として、米作と畜産や水産の複合経営、転作物の定着、労働収益の向上を目指します。行政一般については、役場職員一同庁議を重ね、村行政の適正な運営を図っていきます。

青少年の健全育成は地域連帯で

村民のみなさま、謹んで新年のおよろこびを申し上げます。二か年続きの深刻な凶作も明け、新しい健やかな年に意欲を燃やしていることと存じます。



教育長 武井 一郎

日ごろ、学校教育や社会教育の向上、地域文化の発展に数多くの方々からご協力いただいています。厚く敬意と感謝を表すさせていただきます。

今日、社会経済が進展する中で、物質的豊かさにもまして、人間としての心の豊かさ、うろおいのある生活が求められています。そのため教育の分野でも生涯の各時期に応じた成人教育の場、学習の機会が必要となりました。我が村では、調和のと

れた人間教育を目指し、幼児を持つ母親層から高齢者層まで、各年代に合わせた学習の場を設けています。豊かな文化的環境を整えるためにも、さまざまな施策を進めています。

新年度は、県の長期総合計画を基本目標に、次のことを重点的に推進します。

まず、児童生徒の健全育成です。最近青少年の非行が広域化、集団化、低年齢化の傾向です。それは学校教育、家庭教育上の

問題だけでなく、社会問題として大きな波紋を投げかけています。

わが村では昨年二月に、青少年育成蓬田村民会議が発足しました。これまでさまざまな活動を実施してきましたが、なんといつても、家庭の父母の理解と協力なしでは、効果は上がりません。今後、地域社会の大人たちの連帯を強め、児童・生徒を互いに見守り育てる意識を広げたいと思います。

義務教育に限らず、小・中高を通した一貫性のある生徒指導態勢をつくり、「知・徳・体」の調和のとれた人間育成が必要

だと考えます。

ご承知のように、国や県、地方でも、財政事情はまことに苦しい状況です。教育行政にとっても、何を重点事項に取り上げ何を控えるかの選択は必至であり、厳しい判断を求められることになるでしょう。

今年度教育委員会では、一つ一つの事業効果をじゅうぶんに確かめつつ、真に実効ある教育行政を目指し努力します。本村教育の振興のため、すべて成果ある年でありませうように、またみなさま方のご健勝を祈念し、新年のあいさつとします。

また、児童生徒の健全育成で、それは学校教育、家庭教育上の

また、児童生徒の健全育成で、それは学校教育、家庭教育上の

村の発展は住民との対話から



我が村では、私たち村民の意見や考え、要望を総合的に取り上げる場として、毎年行政懇談会を開いています。

この集会で出された意見は、きめ細かな村政の運営と、広い長期的視野に立つた企画のたたき台として活用されます。さらに、『広報紙』や回覧板有線放送による一方通行になりがちな広報活動に対し、直接住民と対話する広聴活動としての役目もあります。

十一月二十八日の集会には、各地区の区長・行政連絡員・班長が一同に集まり、各地域が抱えている課題や要望を持ちよりました。当日の主な質問と答弁を紹介します。

中沢地区
観音様通りに
外燈を一基

高松弥一郎宅から観音堂の間は杉林で、夜間は手さぐり状態です。ここに外燈をもう一基増設してもらいたい。

五十六年度は、全部で十燈予算化しています。外燈は、各部落の消防分団長にお願いし、設置場所を決めています。

中沢からは、まだ届出がありません。消防の方と相談し、いちはん必要だと思ふ場所を決めてください。

瀬辺地地区
郷沢以北にも
裏通り線を

- ① 通学道路の早期着工を
- ② 農免道路の早期着工を
- ③ 瀬辺地北部の担当区車庫から広瀬ヤナタ宅前までの国道二八〇号線山側の側溝を現地調査願いたい。

郷沢以北には裏通りがありません。玉松台の北側一五〇は村の用地です。それ以北は国鉄用地です。その払い下げを受け、道路にしたいと盛岡の管理局と交渉しています。津軽線は海底トンネルもでき、昭和六十年ごろには特急を走ら

せる段階です。もつと拡幅しようという状況にあるので、とても払い下げは不可能という感触です。

村が調査した段階でいけば困ったのは、変電所のところまでも二、三軒の住宅を移動しなければならぬことです。それ以北ガード下まででは、家や車庫・倉庫を合わせると十五戸移動が必要です。たとえ国鉄が払い下げをしても、各住宅の面積をみたところ、後ろへも前へも引張れない状態です。

- ② 農免道路の件は調査も済み図面もできています。近いうちに関係者と話し合いを開く予定です。瀬辺地、広瀬、高根をつなぐ農免道路計画ですが、青森県に毎年一件か二件しか予算配分がありません。東青地区に順番がくるのは、昭和五十八年度です。事業費をみても、村単独でやれる事業ではありません。順番を待っても、制度にのせてやった方がよいと考えます。
- ③ この場所には側溝が入っていますが、山側から土砂が流れて埋まっています。現在の水量

からいつて、掘りあげれば水の流れもよくなると思います。現在山館清さんのところから小野清七さんのところまで、急傾斜地の崩壊危険地帯の指定を受けたかと思っております。ただし、山館清さん宅から北の地帯は、住宅がないので急傾斜地の指定にはりません。側溝については、県の道路課にお願いし、瀬辺地の要望にこたえたいと思います。

広瀬地区 国道を横ぎる排水溝 と車の振動被害

- ① 広瀬滝沢の農道の早期着工を望みます。
- ② 幼稚園付近の国道は、雨のたび土砂が流れて排水溝を埋め、水が流れません。さらに、幼稚園の入口から国道を横断した排水溝をつくって以来、大型車や中型車を通るたびものすごい振動です。特に冬から春にかけて道路が悪いとき、周辺の民家がガタガタ動き、モルタルやタイルがはげ落ちてくる状態です。現地を見たらうへ検討願います。
- ③ 二年続きの冷害のため、転作奨励金と共済金の早期支払いを望みます。
- 答 ① 滝沢の農道は来年度から工事を着工します。



振動被害が出ている排水溝(幼稚園前)

- ② この地区については早い機会に県へかけあいます。もともと路盤の弱い地帯でもあるようで、まず路盤補修が急務だと思います。
- ③ 共済金は、十二月二十日以降に支払いできるそうです。

高根地区 大雨の災害復旧 工事を早く

- ① この地区の中を流れる農業用水路があります。現在、水をもつてくる途中、水路の悪い所があるようです。もしここを水がじゅうぶん流れているなら、火災のとき活用できます。
- ② 高根地区には、関根股川、西ノ股川、砂川の三本河川があります。大雨が降ると田畑や畑、道路が決壊します。今年もかなり決壊しているので、早めに工事してもらいたい。
- ③ 広瀬、高根間の道路に、外燈をもう四、五基つけてほしい。中学生が部活動後、遅く帰って来ます。危険性もありますからぜひつけてもらいたい。

- 答 ① 農業災害としての取扱いができる工事かどうか、現地を調査して対処します。
- ② 今年は災害の年で、高根の西ノ股川と関根股川だけで二十六か所決壊があります。十二月二日災害査定があります。今年の子算配分をみると、十か所分くらいしか予算がつきません。
- 金額にして七、八千万円です。緊急度の高い順に施工します。あとは五十七年度中の着工になります。災害は、だいたい三年計画で予算配分になります。今年が全国的にも災害が多く、配分が少なくなっています。
- ③ 電柱が田の中にあるので、これを道路端に移動する必要があります。東北電力と交渉した結果、電柱移動には村で五、六百万円負担しなければならぬようです。現在の電柱には、電線と電話線がついているため、電話局の了承もなければ進進しない状態です。

長科地区 安全稲作と 作付品種の選択

- ① 長科川の北側、藤本繁久さんの後ろから長科の墓地まで百メートルあります。ここは舗装しないのか。
- ② 農村児童公園ができましたが、周囲全部に金網を張ってほしい。子どもたちがハウスに上って苦情が出たり、危険な面もあります。
- ③ 今年は米が少しとれたといっても、種子としては完全ではありません。来年はハマアサヒ五〇智作付指導という話が出ています。少し詳しくお知らせください。
- 答 ① モデル事業でアチコチ舗装していますが、長科のこの線は計画に入っていません。モデル事業でやるとすれば、五メートル幅が必要です。現況では、距離的に短かいし、受益戸数が少ないという点から、この事業への追加は無理だと思います。もしやるとなれば、村単独でやるしかありません。財政の面で検討が必要です。
- ② この児童公園は、モデル事業で設置したものです。すでに工事完了の検査済みですから、



…ハマアサヒ50%作付を奨励…

追加工事ということはできません。危険性があるとすれば、村単独工事になります。

③ 九月に農協が来年度の種子申込みをとりました。その結果アキヒカリが圧倒的に多い状態です。

来年度もやはり危険な年だとされています。今年の二の舞を防ぐために、振興組合会議を

開いて来年度の品種を相談しました。来年もあまりよい年を期待できないので、晩生よりも早生を奨励した方がよいという意見がほとんどです。

県で奨励している品種は、早生でハマアサヒ、中生はアキヒカリだけです。なるべく早生種を村全体で半分以上作付してもらうように普及奨励の意味で、

ハマアサヒに助成することになりました。

その後、県や国の方でも去年並みに種子に対して助成する話が出たわけです。現在村では県の方へ申請しています。これが県で決まれば、ハマアサヒ、アキヒカリにかかわらず、申し込んだ種子の数量については助成になります。その他に、ハマアサヒを申し込んだ農家に対して村の助成を上積みさせることになりました。

一つ問題は、ハマアサヒにイモチ病がまん延したことです。防除については、葉イモチがついていたにもかかわらず、防除しなかったことも原因です。航空防除の前に、葉イモチの薬剤散布を一回行うことを前提にした作付奨励という考えです。

平年作とすればハマアサヒとアキヒカリでは収量に差が出ると思いますが、蟹田での試験田では大きな差はありません。

「安全稲作」をするという点からも、ハマアサヒ五〇%奨励する方針です。

その他
社会教育活動に
公民館車を

- ① 蓬田地区は防犯燈を一基要望します。八幡宮へ続く参道の途中住宅があります。ここに一基お願いします。
- ② 村内の主要幹線農道の舗装が進んでいます。阿弥陀川はいつごろ着手ですか。
- ③ 高根で火災があったとき、村に共用地を貸して住宅を建てました。この共用地を所有者がそろそろ分割して、自分のものにしたという意見が出ています。もし部落で要望すれば、返す考えがありますか。
- ④ 公民館車を長い間要望してきました。近年日稼ぎが増えて晩でなければ婦人たちの学習活動、社会教育活動ができない状態です。遠い地区では足がないと、どうしてもたいぎでせつかくの学習に参加しにくい状況です。毎年毎年要望しても、どこで削除されるやら予算がつかえません。この点はつきりと返答願います。

- ① 蓬田地区の防犯燈ですが、現在消防分団長から警鐘台のところと、蓬田大橋付近の要望が出ています。今年度は十基分しか予算がありません。年次計画で順次につけていきます。
- ② 阿弥陀川地区の幹線農道舗装は、今年度で要望中です。国の財政面で県への配分に限りがありますので、順番をつけられています。できる限り今年度採択、来年度着工目指して努力します。
- ③ 共用地を貸りて建てた村営住宅には、現在入居者があります。入居者がある内に土地を返すということになれば、トラブルが起きます。入居者との話し合いがつけば、村では住宅を廃止し、土地を返す考えです。
- ④ 公民館車は、新年度でぜひ購入します。

郷土の歴史

— No.18 —

北の守り手 瀬辺地館

広瀬地区から高根地区へ通じる道路の中間地点で足を止めると、左手に標高二〇〇mほどの丘陵があります。ここが

通称「広瀬のチャシ」と呼ばれている瀬辺地館です。現在天内与作さんの山林になっています。

この一帯が「広瀬」と改名されたのは江戸時代であり、旧名のアイヌ語系統の「瀬辺地」をとって、瀬辺地館と名づけられています。

戦前、小野忠明氏が発掘し、平安時代の土師器や擦文土器を得ました。その資料は、現在全く存在しません。小規模発掘が戦前のため、館跡の規模は今まで知られていませんでした。

十一月末に、蓬田村郷土史研究会のメンバーが集まり、この一帯を調査した結果、図のような館跡であることがわかりました。

館は正方形に近い形をしていて、周囲には二mから五mの堀をめぐらしています。郭は空堀で第一郭と第二郭に仕切られ、平安時代の館であることがわかりました。

高根の小野寺守さんの話では、ここは昔、草刈り場であり、当時刃剣類を数本発見したそうです。

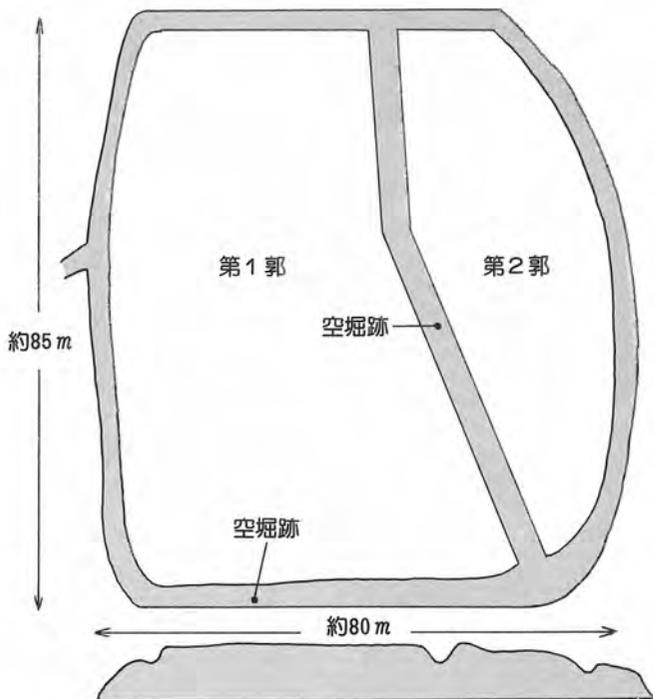


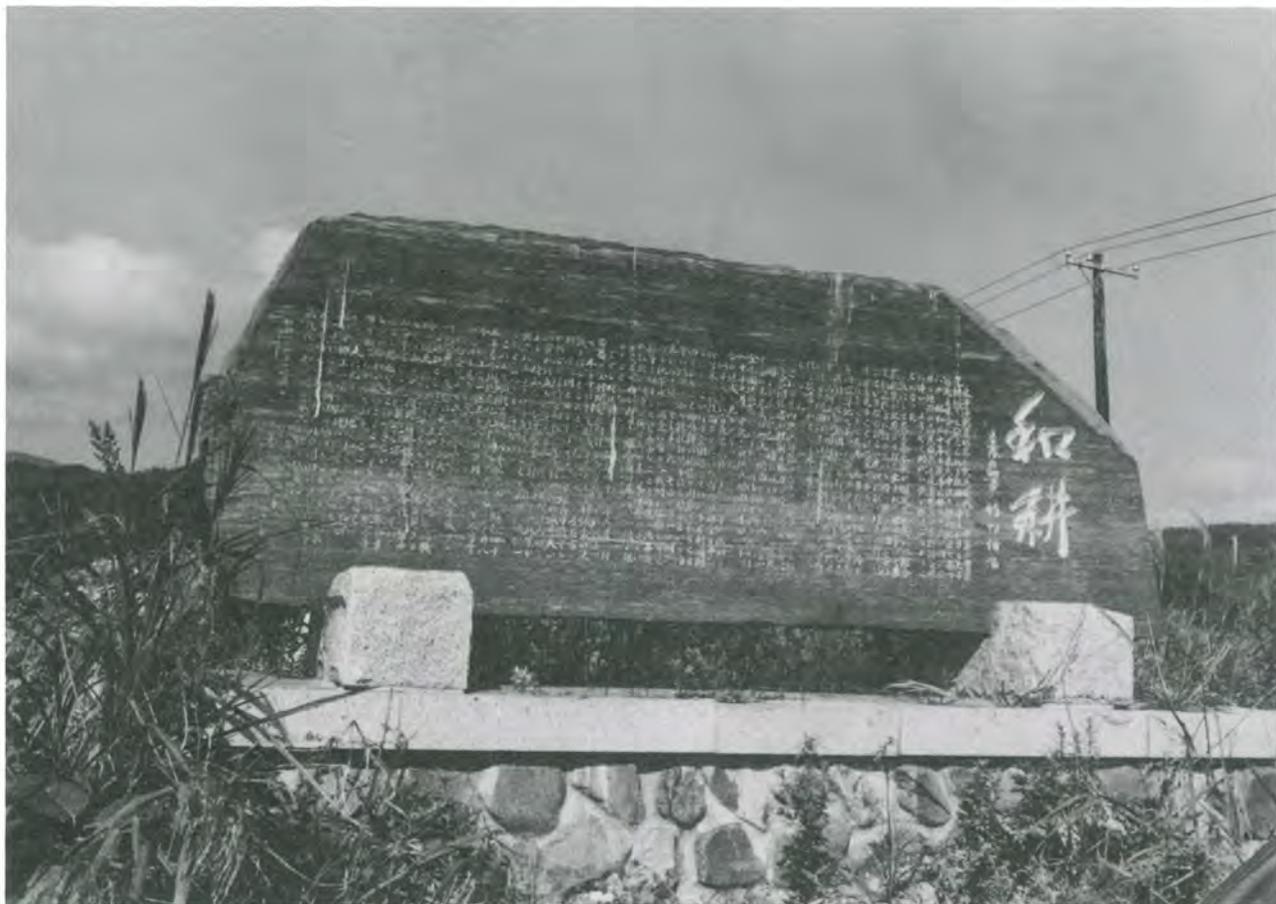
……瀬辺地館遠景……

います。

(文・倉谷弘孝)

蓬田村には昔の城跡が三つもあったのです。蓬田城大館を中心に、南に阿弥陀川の小館を配し、北の守りを瀬辺地館に託したのです。平安時代ばかりでなく、鎌倉・室町時代にも、蓬田城の山城として存在した可能性が強くなつて





和耕

昭和45年12月6日建立
 中沢長科土地改良事業共同施行
 記念碑建立準備委員会起草
 蓬田城主蓬田越前之守末高相馬利忠謹書

● 村内石碑めぐり

「農の心」を伝える

太平洋戦争以来の欠乏時代も、千年の昔から開かれたと伝えられる祖田に守られ、さしたる窮迫を味わうことなく来た中沢・長科両地区。

昭和二十年も後半になると、総合農政策が政府より打ち出され、世は挙げて農業構造改善につとめていた。このまま独り旧田に安住しているならば、この先行き詰まりをみることは必至である。

これを憂える有志が両地区にまたがる旧牧草地であった百ヘクタールの遊休原野に着目。両部落の有志たちは、以後私事私心を捨て、受益関係者の理解と協力を得ることに専心した。ときには会合激論。ときには和顔談笑と曲節數十番の末、衆議は一決。開田のみか旧田を含む全面は場整備という積極的体勢で、昭和四十年七月、中沢長科地区開田パイロット組合が結成された。

同年、直ちに補助金の申請をしたが、全国初めての地下水利用開田であること、補助枠の操作が困難であることなど問題があり、採択は持ち越しとなった。昭和四十二年六月、村が全村開発長期計画を策定。それによりこの事業は村費助成事業として

村議会の決議を得た。挙村一体の誠意が大いに買われ許可の運びとなる。増反事業打ち切りの政策が出されようとする直前のことであり、感慨ひとしおであった。

昭和四十二年秋着工。昭和四十五年春、全域総面積九十四ヘクタール、穿井八本、総工費一億三千八百万円でこの事業は完了した。

一人の脱落者もなく実現したことは、この事業にたずさわった人々と受益者の和合の賜である。

「天に和し、地に和し
 人に和す」

これぞ郷土の望む和耕の精神である。一望に広がる新田は絶ゆることなき未来の実りを約束するとともに、この開田に当たった我ら農民たちの和の魂を永久に語り伝えん。

むらの生活誌は今回休みます。次回から再び掲載します。

農村文化を 掘り起こせ ”村民祭“

11月22日～11月23日

十一月二十二日と二十三日の二日間、蓬田中学校を会場に、村民のアイデア豊かな村民祭が開かれました。今年のテーマは『和』。二年続きの冷害で沈みがちな村の雰囲気ですが、村民の心まで余裕のない村にはいけない、みんなの和で蓬田らしい農村文化あふれる村づくりを進めようという意気込みが会場にあふれていました。体育館では子供から高齢者まで各年代層から意見発表。各部落自作自演のミュージカルや人形劇。教室では子供たちの絵や習字、たこ絵の作品展示。手づくりしめなわと野菜の即売。盆栽クラブのみなさんは、日ごろ丹精こめた鉢植えを並べ、村民の目を楽しませました。





歳末助け合い“そば” にご協力ありがとう



第1回村民祭にあたり、連合婦人は昨年のように友愛バザーを開催し歳末助け合い募金に寄付しようと話しました。ところが2年続きの冷害では品物も集めにくいということで、“そば”の販売に決めました。

みなさまの温かい理解とご協力で128,000円の売上げがありました。紙面を借りてお礼申し上げます。収支決算の結果、42,910円の利益が出ましたので、寄付させていただきます。

なにしろ初めてのことであり、細心の配慮をしたつもりですが、味などの点でいろいろ不満があったと思います。なにとぞお許しください。歳末助け合い募金は連合婦人会事業の一つとして毎年続けています。今年もみなさまのおかげで目的を果たすことができました。厚くお礼申し上げます。……………蓮田連合婦人会

演劇「おらに太陽を」(中沢おらづくり)



特集 青少年の主張

青少年育成蓬田村民会議では、十一月二十一日の村民察で、青少年の主張大会を行いました。今回はその中から、中学生と高校生の子張を紹介いたします。現代青少年をとりまく社会と、高校生気質がうかがえる内容です。

私たちは人間が生きていくためには、生活の中に一つのリズム

が必要だと思います。そのリズムの調子が狂うと、生活が不規則になり、勉強が乱れたり、まじめに生きることに對して、やる気がなくなり、非行への道へと走りたがります。

一人前になったつもりで、かくれてたばこを吸ったり、酒を飲んだり。悪ふざけをしながらシンナー遊びをしたり、集団で万引きをしたりする記事が毎日のように新聞をにぎわしています。

この人たちは、知らず知らずのうちに生活のリズムが狂いだしたのだと思います。一度狂いだせば、いくら自分から反省しても、常に悪友が呼び出しをかけた誘うため、なかなか逃げきれ

ないということでしょう。そのことに気付いたときはもう遅く、だんだんと悪い道へ入り込んで逃げだすのが困難になってしま

います。親や家族たちは、そんな姿を見て、どんなに嘆き悲しむことでしょうか。悪い道に入らないためには、規律正しい生活をしな

ければいけないと思います。親の言うことをよく聞き、先生の話をまじめに聞き、良い友だちをつくることも必要です。それに、自分の気持ちをしつかり持ち、どんな誘いもことわる

べき強い意志と忍耐力が必要だと思

います。世の中は、今ではなんでも好きな物が自由に手に入ります。

す。けれども、だんだん回数が増すことに競争になり、最後には二十

三周で二人ともダウンしたという例があります。郡大会の当日、オープン競技の千五百

人が出ることになつたのです。もちろん僕一人ではなく、Y君もです。Y君とは一年のときからライバルのようなものでした。彼とは、何かをするときいつもいっしょ

でした。一年のとき、まだ入部届けを出していなかったのに、二人でグラウンドを走っていました。もちろん遊び半分

です。けれども、だんだん回数が増すことに競争になり、最後には二十三日で二人ともダウンしたという例があります。郡大会の当日、オープン競技の千五百人がスタートしても、Y君とはまるで別々の学校の生徒のように争っていました。走ったのは、たったの四人です。いつもは遅い二人でも、今回は

欲しい物があれば、すぐ親が買

つてくれるので、子供はがまんすることを忘れてしまつてい

ます。テレビや新聞を見ても、欲しい物が手に入らないからとい

って、すぐデパートで万引きするのは甘えた気持ちから起こるのだと思います。家出をしたり自殺をして親に反抗するの

のも一つの甘えだと思います。私は欲しい物が手に入らなかつたら、じつくりお金をためて買えばいいのだと考えま

す。家出や自殺では問題が解決しません。命というものは、そこら辺にころがっているほんのゴミくずみたいなものでしょうか。命を粗末にするのであれば、人間として生まれてきたか

ないと思います。

未来に對して希望を持たない人はいません。希望どおりい

なくても大部分の人はいくじけず、次の希望に夢をたくし、毎日の生活をくり返しているはず

です。どんなに世の中が経済的に恵まれていても、心のかぎをゆるめず、自分の考えをはっきり持つて、自分自身に甘えてはいけません。私

たちは家庭と学校から規律ある生活を学びとり、友だちの輪を広げて、一人でも非行に走る人をなくする

ように心がけるつもりです。り思っていたのです。父の返事は意外でした。「遅い」と、言うのです。実は、僕の父は中学のころ、陸上部に入っていたそうです。それも、長距離ではなく短距離の選手です。そのころでも千五百人があつたそうで、タイムは

規律正しい生活を



蓬田中学校1年 佐々木美由紀

僕は夏休みの初日から、ずつと早朝マラソンを行つてきました。なぜ物事にすぐあきてしまふような僕が、早朝マラソンを続けたのでしょうか。

それは六月二十四日の中体連郡大会に出場したときのことです。学校ではいつも長距離の練習をしているのですが、このときに限ってオープン競技の千五

百人が出ることになつたのです。もちろん僕一人ではなく、Y君もです。Y君とは一年のときからライバルのようなものでした。彼とは、何かをするときいつもいっ

しょでした。一年のとき、まだ入部届けを出していなかったのに、二人でグラウンドを走っていました。もちろん遊び半分

です。けれども、だんだん回数が増すことに競争になり、最後には二十三日で二人ともダウンしたという例があります。郡大会の当日、オープン競技の千五百人がスタートしても、Y君とはまるで別々の学校の生徒のように争っていました。走

ったのは、たったの四人です。いつもは遅い二人でも、今回は

欲しい物があれば、すぐ親が買

つてくれるので、子供はがまんすることを忘れてしまつてい

ます。テレビや新聞を見ても、欲しい物が手に入らないからとい

って、すぐデパートで万引きするのは甘えた気持ちから起こるのだと思います。家出をしたり自殺をして親に反抗するの

僕の早朝マラソン



蓬田中学校2年 津島弘樹

十年前のこともでもバカにはできません。まして僕のタイムでは「はしにも棒にもかからない」と思っていたのでしょうか。

それからというもの、母のすすめで、毎日のように早朝マラソンを続けるようになりました。コースは二千五百メートルぐらいです。蓬中グラウンドで約八周ですから、案外長い距離だと思います。途中アスファルトコースもあり、砂利コースもあります。距離は長くても、一日一日と自然の移り変わる

わりが見え、なんとなく楽しいコースだと思えてきました。

その様子を夕食の一家団らん

のときに話し出すと、みんながいろいろとアドバイスしてくれます。話をすると、口では表せない温かい何かが発生してくるような感じがして、うれしくな

ってきます。なによりも陽気に話ができることが、僕にはとても楽しいのです。

たぶん、その芽生えていたものは、明るく、温かい、家庭の味だと思えます。

当時は毎朝続けていたのですが、今は走っていません。走っていた分を、睡眠時間に含めるようになりました。もう少し続ければよかったと考えたり、寒くても我慢できなかったのかなあと後悔しています。

ずっと続けている家からは、非行にすすむ人もいなくなると思います。非行にすすむ人は、それだけ心が弱いのです。ですからみなさん、弱い心の持ち主を助けてあげてください。そうしなければ、たくさんの方が非

行に走ったり、自殺をしたりします。みなさん、ぜひ協力してあげてください。

お手玉、おはじき、ビー玉、めんこ。幼いころ、いろいろな遊びをしました。夕暮れまで走り回ったり、雨の日はちよっと憂うつな気分であの間に閉じこもりお人形遊びをしたり。あまり熱中しすぎて友だちとけんかをしたり、手足を擦りむいて赤チンキを塗ったり、無邪気にそして純粋に遊びに無中になっていたものでした。

これらの中で、いちばん身近なもののはたばこです。皆さんの中にも、学生服に身を包んだ彼らが、汽車の中でコソコソと他人の目を気にしながらたばこをくわえている姿を見かけた人があると思います。法に触れ、人の目を気にしながらもなぜ、たばこを吸うのでしょうか。

たばこは退屈なとき、いやなことがあったとき気分を紛らわしてくれものらしいです。彼らの中の一人が、同じようなことを言っていました。「おもしろくない退屈な授業に出てむし

やくしゃした後、たばこを吸いその煙を見ているとすうっと落ちついてくるのだ」と。

なんと大人ぶった言い方なのでしょうか。彼らはたばこというものに逃避し、勉強をするという義務、裏返せば権利でしょうが、それを放棄してたばこの持つ悪魔的な倦怠に漂っているのです。今、高校生の大人気のオートバイも同じことです。万引きの見つかりそうで見つからないスリルやテクニク。これも安易な逃避の一つだと思えます。

例えば、我が蓬田村には高校生を対象にした子供会上級リダー会や、ふるさと運動。があります。遊びとは言えませんが、未来を背負っている私たちは、こういう社会活動に積極的に参加すべきだと思います。学校での勉強だけではやはり灰色ですから、心の豊かさを養える場を一人一人探すべきでしょう。

幼いころの無邪気さからいつしか離れ、私たちは高校生になりました。時の流れの中で、幼かったころの遊びはどんなものへと変わったのでしょうか。

高校生の遊びといえば、普通創造性豊かなものを想像します。ところが、たばこ、シンナー、バイク、万引き、かけことなどもあり、無邪気だったころに比

べると考えられないようなことです。

そのきっかけは人によって違うでしょう。友だちに勧められたり、大人ぶってみたかったり、単純な好奇心など、いろいろだと思えます。喫煙を助長するかのようにはたばこの販売機がこの道端にもあるし、許し難いことに、店の人が高校生と知りながらたばこを売ったりもしているようにです。

高校生の遊び



今別高校2年 佐々木博子

欲求不満の解消は人間の心のしくみです。だからと言って、安易な方向ばかり見ている、若者として失格です。オートバイは事故を起こします。シンナーは中毒になります。他人に迷

惑をかけ、警察や病院の世話になってからでは遅いのです。もっと自分自身をたいせつにして若者らしい健康で楽しい遊びを考えなければいけないと思うのです。

例えば、我が蓬田村には高校生を対象にした子供会上級リダー会や、ふるさと運動。があります。遊びとは言えませんが、未来を背負っている私たちは、こういう社会活動に積極的に参加すべきだと思います。学校での勉強だけではやはり灰色ですから、心の豊かさを養える場を一人一人探すべきでしょう。

高校生の遊びが大きな社会問題となっている今こそ、私たちは本当の若者らしい、人間を豊かにしてくれる「遊び」を探求したいと思えます。



2年続きの凶作に思う

森 サキ
農協婦人部

農家に生まれ、農家に嫁ぎ、いろいろ親たちの体験を聞いたり見たり教えられたり農業を四

私は本日の村民祭の場を借りて、日ごろ婦人会活動で感じていることについて述べ、みなさまのご理解を得たいと願うものです。

近年社会の情勢は目まぐるしく多様化し、まして二年続きの冷害です。婦人会活動参加など耳にも入らぬと言われるかもしれませんが、やはり地域婦人会はなくてはならない団体だと思うのです。

現在婦人会の会員数は三百二十五人です。どの事業も夏場は出席がわずかです。そこでどうしても冬場に事業が集中します。会員の参加率が多いものといえは、料理講習会と会員研修旅行です。

でも、そればかりするわけにもいきません。ここ何年か婦人会が継続している学習に部落別研修があります。これは、中央だけで学習会を開くと距離的な関係で出席が思うにまかせない会員がたくさんいます。そこで各部落が輪番制で会場を持ち、他の部落の会員がそこへ出向いて勉強するという方法です。村内婦人会の親睦を深める意味でも、今後も継続したいし、協力してもらいたいと思います。

次に生け花講習会も開いています。村民祭にも展示していますからご覧ください。玄関先に生け花があつて人を迎えるのも十年間続けてきました。

けれども去年の冷害には泣きたい気持ちでした。一俵の食べる米もなく、どうしたら一年暮らせるかと心配しました。果、村、農協のおかげで安い価格の米を販売してくれたので、戦争中のようにカデの入ったご飯を食わずにすみました。

共済金も出しました。激甚災害の指定により安い利息で金も貸してもらい、借金も購売も、農機具の代金も一応支払いすることができ、一年が過ぎました。稲の種も無償配布になり、今年こそはと意欲をもちやし種をまきました。だれもが、秋のどつし

り頭を下げた稲穂を心に描き田植えをしたと思います。

ところが、田植えの終わるのを待つかのように、今年の凶作が待っていました。東風（ヤマセ）です。空には黒い雲が低く田んぼを覆い、お日さまは顔を出さず低温、また低温です。七月の末から八月中ごろまではどうやら夏らしく、これで稲もぼん回してくれるかと思つたところが、二十日ごろからまた気温が下がりました。おまけに台風十五号です。稲の穂はいつ出るのやら。ほんとに二年も凶作が続いてしまいました。

食う米には困りませんが、毎

いいものです。どなたでも気楽に習得できます。今後会員の募集がありましたら、ぜひ加入ください。



婦人会活動と地域社会

張間 キヨ
連合婦人会

私たちが農家は、なぜこんなに苦しまなければならないのか。減反により農業収入は減り、凶作も二年続き。今度は行政改革という名のもとに、農業への補助も減額。生産者米価は実質的に何年も据え置き。何一つとして、農家にプラスになるものがないのです。

休耕している田んぼを見ると、先祖にすまないと思えます。農家でありませんが、田んぼをつくることのできないので。農

村政を知るために、年二回課会傍聴をしています。家庭にひっ込みがちな私たち婦人には得るところがあります。次の十二月定例会には、これまで参加できなかった会員に、ぜひ傍聴を進めたいと考えています。

あすなる国体を契機に村内花いっぱい運動とか、年二回の空かん、空びん拾いを実施しています。驚くほどの量に、この運動もやめられない一つたなあと痛感しています。

活動のいくつかを挙げましたが、婦人会と地域社会は車の両輪のようなものなんだなあと感じます。村内の婦人が一軒から一人婦人会に加入し、その事業

自分たちの生活は自分で守らなければいけません。去年は新生活運動協議会も発足し、たいへんよかったです。二年連続の凶作で、収入の少ない一家の生計をあずかるのは私たち主婦です。心を引きしめ、むだ使いせず、明るく強く健康に注意して生きていくことを願つて私の発表とします。

によってお母さんが出席したり嫁さんが出席したり、好む事業に参加するようにしたらいかかなものでしょう。一人の百歩より、百人の一步からとよく言います。地域八地区の婦人総参加のもとに、蓬田村の大きい輪をつくるのが念願です。

会員が一年三百六十五日のうち、一人必ず何かの事業に参加したなら、婦人会活動も夢の多いものとなるでしょう。特に村内美化運動には、八地区挙げて活動したいと強く申し上げたいところで。みんないっしょに歩きましょう。話し合いましょ。明るい村づくりには。

ほ乳ビンとむし歯

赤ちゃんになくってはならないほ乳ビンも、扱いをあやまるとむし歯の原因になります。

ダラダラ飲ませは禁物

歯の周囲に糖分や食べカスがあると細菌が繁殖してむし歯になります。ミルクや糖分を含んだ飲みもの入ったほ乳ビンを長い時間くわえていると、歯のまわりに細菌の栄養分が長くどまり、それだけむし歯になる機会も多いのです。二〇〇ccのミルクなら十五分か二十分で飲ませるのが目安。ダラダラ時間をかけるのは禁物です。

飲みながら眠らせない

唾液は口の中や歯の周囲をきれいにしたり、むし歯がつくる酸を中和するはたらきを持っています。ところが眠ってしまうと、唾液の分泌が減少します。ほ乳ビンでミルクを飲みながら眠ってしまうと、唾液の自浄作

用、中和作用が効かなくなります。飲みながら眠るクセはつけないこと。

もし眠ってしまったら、同じ形のほ乳ビンに湯ざましを入れて口にふくませると反射的に吸いこみ、口の中はきれいになります。

ほ乳ビンは遅くてもお誕生日まで

ほ乳ビンはいへん便利なために、ついいつまでも使いがちです。遅くても満一歳のお誕生日までにはやめましょう。二、三歳になってもほ乳ビンを使っている例がありますが、これはむし歯や歯列にとって、最も悪い影響を与えます。

あなたの真心を 赤十字運動に

日本赤十字蓬田支部・民生課

赤十字は人種・宗教・政治・国境を超越した完全中立な立場で、事業を進めています。

赤十字の財源は、この人類愛精神に賛同する社員の拠出金と寄付金でまかいます。今年も2月1日から、社員増強運動が始まります。むらの日赤協賛委員が、みなさんの家庭に資本調達のため伺いますので、ご協力願います。

●社員の種別

社員	毎年 300円
銀色特別社員	1万円 (一時金) 毎年1,000円ずつ10回納めてもよい。
金色特別社員	3万円 (一時金) 毎年3,000円ずつ10回納めてもよい。
銀色有功章	20万円 (一時金)
金色有功章	50万円 (一時金)

☑1月1日(金)のゴミ収集は休ませてもらいます。1月4日(月)から作業を始めます。

現地面接相談所 を開設します

民生課・内線24

東地方福祉事務所では、生活福祉関係の面接相談所を役場民生課に開設しています。相談日には福祉事務所から、専門の職員が来てお話をうかがいます。困った問題がおきたときは、一人で苦しまずぜひおいでください。

- 開設日 月2回 (第1、第3) 木曜日
- 時間 午前中

書き初め大会

申込み受付中

教育委員会主催の新春書き初め大会が、今年も中学校体育館で開催されます。家族そろってご参加ください。

席 題

が出ます。スクールバス停で待つてください。

- とき 一月八日午前九時半
- ところ 蓬田中学校体育館
- 対象 小学生・中学生 一般村民
- 参加料 一人二百円
- 申込み 小・中学生は部落子供会世話人へ、一般村民は中央公民館へ参加料を添えて申込んでください。(一月五日まで)
- 持ってくるもの 筆、ぶんちん、下じき、昼食 (紙とすみは教育委員会が準備します。)
- バス運行 高根と中沢から八時半にバス
- 小学生の部 「たこ」
- 二年 「かるた」
- 三年 「さむい空」
- 四年 「新しい年」
- 五年 「新年計画」
- 六年 「少年大志」
- 中学生の部 「四海太平の春」
- 一・三年 「風清草木栄」
- 一般の部 「春麗山河壮」
- 審査員 書道家 工藤蘭山先生他



ヤング
メッセージ
No.22 神 順子・19歳
蓬田

楽しい青春時代を



私が青年団に入ったのは、駅伝大会がきっかけです。それまでは遠くから見ただけでした。

駅伝大会をきっかけとし、青年大会（演劇やバレーボールなど）、最近では村民祭と次々に行われる行事に参加して、忙しさの中に楽しさを感じるようになりました。

ときには夜遅くまで練習ということもありましたが、どんなにその日疲れていても、次の日にはまた「さあ、やるぞ」という気持ちかわいてくるのです。それはきっと、一人ではなく大勢で一つの目標に向かう青年団員の姿があるからだだと思います。そこが青年団の魅力の一つではないでしょうか。

私はこの中で、たくさんの人と出会い、たくさんの人を知ることができ、そこに語らいの場をも見つけることができました。そんなとき、青年団に入ってよかったなあ。とつくづく思います。

もし青年団に入っていなかったら、きっと同じ生活の繰り返しという平凡な毎日を送っていたんじゃないかと思います。青年団に入ったことで、私自身の一日も変わったし、何よりも多くの仲間を知り、その仲間と話すことの楽しさを見つけ出すことができたことは、とてもうれしいことです。

今、こうしてペンをとって、改めて青年団活動をしてきてプラスになったことって多いなあと思いました。これからも青年団活動、すべてにがんばり楽しい青春時代を過ごしたいと思います。

とくちや
元気でずか
出かせぎ文集「こころ」

お父さんの声聞きたい
蓬田小5年・木村聡子

なんといつても、お父さんは家族を支えているだいいじな人。家にいるときは、すもう、腕ずもんで遊んでくれる。そんなお父さんは大好きだ。

お父さんはすごくこわい。私もしかられると「ドッキン」とくる。私はお酒を飲むお父さんはきらいだ。でも、お父さんはお酒で疲れをとうろうとしているのかもしれない。だから少しはがまんしてもいいと思う。私たちのために、出稼ぎに行ってお金を稼いでいるだいいじなお父さん

東京で働く父

蓬田中2年・坂本清明

多くの父は東京の方に働きに行って、帰ってくるのは正月がお盆です。母は毎日働きに行っています。



んだから。東京では朝から夜まで働きたいへんだろうと思う。私の学用品、衣服はたいせつにつかないといけない。ほんとうのことを言うと、お父さんがいた方がいい。お父さんからあまり電話がかかってこない。久しぶりにお父さんの声が聞きたいのになあ。

お父さんがいないでよかったです。思うのはテストの日。悪い点数だと、寝るまでお説教だ。何回も同じことを言うのであきる。でも、行ってしまうとさびしい。お父さんがんばってください。私はお母さんに協力してがんばるから。お父さんはトシだからあまり無理をしない方がいいと思います。

母が帰ってくるのはだいたい六時ぐらいです。帰りがおそいときは、ぼくがごはんのしたくをしなければならぬときもあります。洗たくも日曜日とかになるとぼくがやらなければなりません。正月になると父が帰ってくる。



母親クラブ通信 ③

中沢母親クラブ



会 長

坂本アツ子

農閑期に親子の交流会

中沢部落に母親クラブが誕生したのは、昭和四十九年です。会員六〇人、満二歳から中学校二年生までの親子を対象にしました。

役場民生課から、母親クラブの活動は児童館と関連をもつて展開するのが望ましいという説明を聞き、さつそく中沢母親クラブの活動を始めたわけです。最初のころは無我無中で、会員が計画した行事はほとんど実践しました。

二年続きの凶作で、共働きの増え、主婦が手を休める日が少なくなっています。このような中で、中沢母親クラブでは、親子の交流をだいにし、農閑期を利用した親子バーベキュー大会を野外で行っています。

交通安全事業として、交通指導隊から自転車の正しい乗り方を指導していただいています。レクリエーションをまじめながら、会員相互の親睦に大いに役立っています。

物をだいにする

心を育てています

家族、戸外でも自分本位の子供が多く、あまり物をだいにしにしくなりました。

部落の中央に交通公園があります。母親クラブでは、子供たちの遊び場であるこの公園の安全点検を続けています。さらに、五月は花だん整備から始め、草取り奉仕などを子供たちといっしょに行い、みんなの遊び場をたいせつにする

るよう指導しています。

母親の研修活動として、省エネについてスライドで学習しました。家族の健康法として手作り食品や子供のおやつのかふうなど、体力向上の面も取り上げています。

今、新聞やテレビで青少年の非行が問題になっています。自動販売機から売り出されるポルノ雑誌が反乱する中で、私たちは母と子の読書活動に力を入れようとしています。これからは、村内だけでなく、近隣の母親たちとも連帯を強めながら、学習の場を見逃してはいけないと思います。

私たち母親は子供に好かれる母親でなければなりません。そのためには広い心と健康な心で接したいと常に考えています。

地域に合った母親クラブの活動と組織づくりを目指しているところです。



折々の歌

木綿糸の白きを手繰り無心なる

冬の女となりて もの縫ふ

花一輪無き荒涼のわが庭に

仮眠の木木が ただ風に鳴る

わが胸に過古へと向う列車あり

雪の降る夜を 静かに走る

雪原の苗畑に撒く土を掘る穴より

掘りし土 匂ふかな

花の咲く稲のかそけき音聞こゆ

ひびくその音 産の声かに

秋荒れて冷害の稲ときならぬ

初雪に埋もりて 歎き湧きこぬ

(以上三首・吉崎慶次郎作)

戸籍の窓



(蓬田村の人口：4,533人)

10月・11月受付分

◎お誕生おめでとうございます。

- 越田 由香 (実篤・長女)
- 大澤 高史 (龍己・長男)
- 森 強 (倉義・2男)
- 坂本 和臣 (寛蔵・長男)
- 小鹿 辰徳 (博二・長男)
- 小鹿 功二 (博二・2男)
- 工藤 順和 (正人・長男)
- 工藤裕美子 (洋一・長女)
- 青木 健司 (昭信・2男)
- 坂本 琢也 (孝三・長男)
- 越田 紀昭 (春美・長男)
- 川崎 圭貴 (一彦・3男)
- 武井美沙緒 (守人・長女)
- 武井 豊秋 (正豊・長男)
- 森 廣野 (淳一・長男)

◎ご結婚おめでとうございます。

- (山本 仁 (蓬田)
- 越田佐代子 (瀬辺地)
- 成田 正 (青森市)
- 青木 雅子 (阿弥陀川)
- 藤本 修 (長科)
- 溝江 悦子 (青森市)
- 佐井 義弘 (広瀬)
- 鳴海 鏡子 (市浦村)
- 坂本 豊 (中沢)
- 蝦名のり子 (青森市)
- 高橋幸太郎 (東京都)
- 田中 栄子 (広瀬)
- 長崎 雅幸 (青森市)
- 張山真奈美 (広瀬)
- 最上 義昭 (青森市)
- 菊地 姫子 (高根)
- 村田美智憲 (青森市)
- 坂本うめ子 (長科)
- 八戸 秀歳 (阿弥陀川)
- 川村磨理子 (横浜町)
- 内村 国政 (蟹田町)
- 高田 光子 (郷沢)
- 畠山喜美雄 (郷沢)
- 伊藤 悦子 (三厩村)
- 葛西 和治 (浪岡町)
- 川崎 明美 (広瀬)
- 久慈 敏行 (瀬辺地)
- 国吉 貴枝 (沖繩県)



除雪にご協力願います

昨年十二月から除雪が始まりました。今年の冬はロータリー車を導入し、除雪態勢を整えています。作業が速やかに、そして安全に進むように、みなさんのご協力をお願いします。

- 道路に障害物(特に自動車の駐車)を置かない。
- 道路外でも破損の恐れがあるものには、標識などで危険表示をする。
- 除雪のあと、すぐ道路に雪を投げ出さない。
- 除雪作業中は機械の三〇〇以内(一〇〇が範囲が死角です)は危険ですから近づかない。
- 除雪作業中のトラブルは、お互い協力的に解決するようにお願いします。
- 道路でのスキー、スケートはやめてください。
- 道路上で自動車故障し移動できないときは、目印に赤旗を高く立ててください。
- 除雪作業で物件破損、人身事故が発生したら、すぐに土木建設課へ連絡願います。

◎積雪量が増えくると、除雪作業は早朝や夜中でも行うようになります。みなさんのご協力をお願いします。

あとかぎ

今回「和耕」という石碑を紹介しました。村内あちこちに石碑があります。その一つ一つが村の歴史を記したものだと思えます。

古代の人々が未来へ語り伝えたいできごとを、人から人へ、やがて文字に、絵や造形に託して伝えたように、「和耕」の碑にも農地を拓き土に生きる人々の魂が刻んであります。やがて幾世代も時が過ぎ、碑の意味さえ人々の脳裏から消えかけても、碑文は当時の農民の熱き心をそのままに語り伝えるのでしようか。

●お悔やみ申しあげます。

- 室谷キヨミ (蓬田・66歳)
- 森 孫太郎 (阿弥陀川・76歳)
- 八幡甚四郎 (高根・54歳)
- 小鹿 キク (長科・75歳)

- (川崎 繁美 (広瀬)
- 山本 裕子 (富山県)
- 越田 明男 (平館村)
- 小鹿 正子 (蓬田)
- 銭谷 利光 (平館村)
- 久慈兵奈子 (広瀬)

(婚姻届が多かったため、今回は10月分だけを紹介します)